

6 地域教育力の活性化

教育大綱重点取組	地域教育力の活性化
-----------------	------------------

教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)

①地域教育協議会活動推進事業	②学校安全体制整備推進事業	③ねやがわ子どもフォーラム事業
④家庭教育サポートチーム派遣事業	⑤家庭教育学級事業	⑥子どもへの暴力防止プログラム
⑦学校支援地域本部事業		

平成 29 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 29 年度
事業費	千円	25,260

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

地域コミュニティを更に活性化するために、講演会やイベント、子ども安全見守り隊等を活用し、学校・家庭・地域・行政が連携して社会全体で子どもを守る環境を構築する。

また、子育て等に不安や悩みを抱える保護者に対し、家庭教育サポーターを派遣し、支援を行うことや、講演会等を通じて、学校・家庭・地域の在り方を考える機会を提供する。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

「地域の子どもは地域で育てる」を目標に地域の人材を活用し、子育てに不安や悩みを抱える保護者が、自信を持って子育てをし、子どもが自己肯定感を持って健やかに成長するように支援することによって、地域教育力の活性化を図る。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 29 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
家庭教育サポーターの活動回数	回	6,750	6,732	家庭教育サポーターの拡充や継続的な活動の結果、子育てに不安や悩みを抱える家庭へのきめ細やかな相談対応や支援を実施することができた。
安全見守り隊の登録者数	人	6,000	4,592	夜間パトロール活動などは活発に実施されているものの、児童数の減少や高齢化等により、新たな安全見守り隊への参加者獲得が困難であった。

平成 29 年度における取組状況

構成取組①	地域教育協議会活動推進事業
-------	---------------

計画（Plan）						
地域教育コミュニティの活性化に資する、各地域教育協議会による特色ある事業実施を一層推進するとともに、「子どもたちを安全・安心に守り育てる事業」及び「社会規範・マナーを学ぶ事業」の実施を促していく。						
取組内容（Do）						
子どもたちを安全安心に守り育てる事業 あいさつ運動や校区補導巡回、夜間パトロール活動などを着実に行えるよう、必要に応じて指導や助言を行った。 社会規範・マナーを学ぶ事業 自転車利用マナー教室や茶道教室など、委託事業の主旨に沿った事業実施となるよう、適正な進行管理を行った。 市地域教育協議会において各中学校区の取組等について情報共有を図るとともに、地域ごとの現状や課題について意見交換を行い、特色ある事業展開を促進した。						
活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
地域教育コミュニティ事業への参加者数	人	38,731	38,300	42,880	40,234 【43,000】	43,500
各地域教育協議会への情報提供回数	回	21	15	14	16 【23】	25

取組内容（活動状況）	
------------	--

【地域教育協議会事業】

中学校区	主な事業実施内容
第一中学校	子育て講演会・学びのすすめ発行・自転車マナー教室
第二中学校	スポーツ交流会・ふれあいコンサート・自転車マナー教室
第三中学校	バルーンアート（幼）・標語コンクール・自転車マナー教室
第四中学校	校区パトロール・職場体験学習・校区カレンダー発行
第五中学校	こども議会・職業聞き取り学習・茶道教室・校区補導巡回
第六中学校	スマホ利用講演会・どんぐり工作・クリーンキャンペーン
第七中学校	非行防止教室・地区懇談会・防犯ポスター掲示
第八中学校	グランドゴルフ大会・八の集い・校区パトロール
第九中学校	校園緑化運動・地域啓発標語・啓発パレード・盆踊り講習会
第十中学校	フェスタ・夏休みパトロール・夜間パトロール・挨拶運動
友呂岐中学校	デイキャンプ・地域の大人との意見交流会・標語づくり
中木田中学校	フェスタ・もちつき大会・絵手紙体験・3校合同パトロール

評価 (Check)

活動指標等の事業参加者数は減少傾向にあるものの、市地域教育協議会において、各校区間の情報共有や意見交換がより充実したものとなり、全校区の活動が一層活発化するなど、特色ある事業が増加した。

評定

今後の方向性 (Innovation)

A	A:達成している (90%以上)
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)
	C:一部達成であり、 課題が残る (50%以上 70%未満)
	D:達成できていない (50%未満)

市地域教育協議会において、積極的に情報交換や意見交換を行うことにより、地域に応じた特色ある事業展開を一層促進し、学校・家庭・地域の連携強化を図り、更なる地域教育コミュニティ力の向上を図る。

平成29年度における取組状況

構成取組②	学校安全体制整備推進事業
-------	--------------

計画（Plan）

「子どもを守る」との市民意識の高まりを最大限にいかし、各種活動の充実を図るとともに、地域パトロールカーの安全運行や適正な活用を推進する。

取組内容（Do）

登下校中の見守り活動

見守り隊従事者にベストや腕章を配付し、子どもの安全安心の確保に努めた。また、登下校時の子どもの見守り活動を通じて、地域住民等への周知啓発を図った。

地域パトロールカーによる接触事故等が発生したため、文書通知及びパトロール実施者講習会において、注意喚起を行った。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
こども 110 番協力軒数	軒	4,861	3,297	3,193	3,175 【3,200】	3,200

取組内容（活動状況）

【学校安全体制整備推進事業取組状況】

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
見守り隊登録者数 (24 小学校)	4,937 人	4,717 人	4,592 人
地域パトロールカー 年間平均稼働日数	111 日/校	103 日/校	101 日/校

評価（Check）

見守り隊登録者数は減少傾向にあるが、地域パトロールカーを積極的に活用した活動や、安全見守り隊による細やかな声掛け活動など、全 24 小学校区において地域の特性に応じた安全見守り活動を展開できた。

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	児童数の減少や見守り活動参加者の高齢化等により、登録者数等は減少傾向にあるが、「地域の子どもは地域で守る」との市民意識の高揚を図り、活動内容の充実など、より質の高い事業実施を促進していく。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組③	ねやがわ子どもフォーラム事業
-------	----------------

計画（Plan）

時事に即した市民ニーズの把握に努め、全体講演会や対象別の分科会を実施し、子どもと学校・家庭・地域の関わりを考える機会の充実を目指すとともに、子どもに関わる関係団体と連携し、幅広い市民への参加促進を図る。

取組内容（Do）

子どもに関わる関係団体との連携による開催

子どもの安全対策や子どもをもつ家庭が安心して子育てができるよう、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちを支え、育んでいくという機運を高めるため、子どもに関わる関係団体が参画する実行委員会に事業を委託し、全体講演会及び4つの分科会を中央公民館で開催した。

<実行委員会参画団体>

- ・寝屋川市立校園PTA協議会
- ・寝屋川市青少年指導員会
- ・寝屋川市地域教育協議会
- ・寝屋川市家庭教育支援連絡会
- ・寝屋川市民生委員児童委員協議会

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
ねやがわ子どもフォーラム事業 の満足度	%	98.0	99.4	99.2	98.3 【100】	100

取組内容（活動状況）		
<テーマ> 学校・家庭・地域で育てる～子どもの明るい未来のために～ <開催日時> 平成 30 年 2 月 10 日（土） 午前 9 時 20 分 <講演内容> ・全体講演会 「子どもを叱れない大人たちへ～少年院面接委員が語る現代青少年の心～」 桂 才賀氏（落語家） ・分科会 ①「子どもの心に届くコミュニケーション」 津村 薫氏（女性ライフサイクル研究所フェリアン副所長） 《対象：未就学児・小学生の保護者等》 ②「発達に課題がある子も元気に育つ子育てとは～ペアレントトレーニングの取り組みから～」 米田 和子氏（NPO 法人ラヴィータ研究所理事長） 《対象：未就学児・小中学生の保護者等》 ③「いのちの重さ伝えて～いのちってあったかい～」 山本 文子氏（いのち咲かせたい代表） 《対象：中高生の保護者等》 ④「青少年を取りまく JK ビジネスなどの有害環境」 森島 正木氏（大阪府青少年・地域安全室青少年課課長補佐） 《対象：青少年の保護者等》 <参加者数> ・全体講演会 373 名 ・分科会（合計） 369 名		
評価（Check）		
時事に即した市民ニーズの把握に努めるとともに、全体講演会や分科会の実施に向け、実行委員会で議論を行ったことにより、広い世代の大人たちの学びの場となった。		
評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	子どもと学校・家庭・地域の関わりを考える機会として充実した内容となるよう取り組んでいくとともに、一般市民の参加を促していく。 また、子どもたちに関わる関係団体間の連携を強化し、更なる事業内容の充実を図る。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組④	家庭教育サポートチーム派遣事業					
計画（Plan）						
孤立する家庭への支援や家庭の健全化を進めるため、サポーターの資質の向上を図るとともに、児童生徒支援人材やスクールソーシャルワーカー等との連携を密にする。						
取組内容（Do）						
サポーターの配置及び活動						
15 人の家庭教育サポーターを市内 12 中学校区の 15 小学校に配置した。 （配置時間は、平成 28 年度に引き続き、1 人当たり年間 832 時間） 不登校傾向にある保護者の相談や家庭訪問を積極的に行うとともに、児童生徒支援人材やスクールソーシャルワーカー等との連携を一層推進した。						
活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
家庭教育サポーター活動回数	回	5, 250	6, 096	7, 030	6, 732 【7, 150】	7, 250
取組内容（活動状況）						
＜活動実績＞						
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度			
家庭訪問回数	2, 768 回	3, 399 回	3, 242 回			
相談回数	3, 328 回	3, 631 回	3, 490 回			
児童対応回数	4, 754 回	6, 056 回	7, 024 回			
評価（Check）						
家庭教育サポーターへの研修や交流会の実施による資質の向上を図るとともに、学校内での連携を深めることにより、個別の課題に対する支援を行った。 また、本事業の周知が一層進み、家庭訪問や相談など、保護者への継続した支援を行うことができた。						

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	更なる家庭への支援を推進するため、全 24 小学校にサポーターを配置するとともに、児童生徒支援人材と連携した、夏季休業中の小学 1 年生及び中学 1 年生の全家庭への訪問を検討するなど、より一層、家庭教育への支援を図る。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑤		家庭教育学級事業				
計画（Plan）						
子育てや家庭教育を学ぶ機会として、また、子どもが学んだことを家庭内で共有する機会として、「わいわい楽しく子育て広場」や「家庭教育講座」、「おとなの CAP」を実施する。 また、家庭教育支援者の資質の一層の向上を図る。						
取組内容（Do）						
おとなの CAP コミュニティセンターエリアごとに計 6 回開催した。						
家庭教育講座 市内 12 中学校区の小学校において「家庭教育講座」を開催した。						
わいわい楽しく子育て広場 子育て世代を対象に、保育付の連続講座を計 6 回開催した。						
家庭教育支援者スキルアップ講習会 訪問型支援を行う家庭教育サポーターや家庭教育講座の企画運営を行う家庭教育ファシリテーターとしての家庭教育支援者の発掘・育成に向けた連続講座を計 6 回開催した。						
活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
家庭教育学級事業への参加者数	人	1, 229	1, 097	1, 319	1, 172 【1, 500】	1, 600
家庭教育学級参加者満足度	%	96	96	93	91 【100】	100

取組内容（活動状況）						
＜実施状況＞						
内 容	場 所	回数	受講者		満足度	
			H28	H29	H28	H29
家庭教育講座	市内 12 中学校区	12 回	924 人	797 人	93%	89%
わいわい楽しく子育て広場	西北コミセン	3 回	27 人	21 人	89%	100%
	エスポアール	3 回	47 人	16 人	94%	100%
	計	6 回	74 人	37 人	92%	100%
家庭教育支援者スキルアップ講習会	市役所本庁	6 回	204 人	208 人	90%	79%
おとなの CAP	市内 6 コミセン	6 回	117 人	130 人	98%	94%
合 計			1,319 人	1,172 人	93%	91%
評価（Check）						
家庭教育学級の開催を通じて、保護者や地域の方々に対し、家庭教育に関する学習機会を提供できた。 また、参加者からは家庭や子育ての悩みが軽減され、振り返る良い機会となったなど、好評を得られた。						
評 定		今後の方向性（Innovation）				
B	A:達成している (90%以上)	家庭教育講座を全 24 小学校区において拡充実施し、保護者同士の交流・学習の場を提供する。 引き続き、家庭教育支援者の人材発掘及び資質の一層の向上を図るとともに、講座の企画・運営への参画を促進する。 また、「わいわい楽しく子育て広場」は、他部局にて類似事業が実施されていることから廃止する。				
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)					
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)					
	D:達成できていない (50%未満)					

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑥	子どもへの暴力防止プログラム						
計画（Plan）							
子どもの安全・安心を守るため、今後も引き続き、市内全小学校の３年生を対象に CAP を実施していくとともに、新たに６年生を対象に実施する。							
取組内容（Do）							
CAP プログラムの学校との情報共有の実施							
各小学校担当教諭と CAP スペシャリストが事前に協議を行い、児童の現状を正確に把握したうえで、市立 24 小学校の３年生に加え、６年生にも拡充実施した。							
また、主任児童委員等が見学するなど、児童に関わる地域の大人も CAP を理解し、児童への対応を学ぶことができた。							
＜実施状況＞							
・平成 25 年度 58 クラス 1,944 人							
・平成 26 年度 56 クラス 1,873 人							
・平成 27 年度 60 クラス 1,932 人							
・平成 28 年度 65 クラス 1,937 人							
・平成 29 年度 65 クラス 1,916 人・【新規】小 6 57 クラス 1,800 人							
活動指標等		単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
受講児童数		人	1,873	1,932	1,937	3,716 【3,814】	3,549

評価（Check）		
各小学校の協力により事前の協議を充分に行ったことで、児童にわかりやすくきめ細かな事業内容とすることができた。		
評価		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	子どもたちが安全安心に成長できるよう、引き続き、市立小学校全3・6年生を対象に実施するとともに、小学校6年生に対しては中学校進学を見据え、更なる理解を深められるよう、プログラム内容を検討する。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成29年度における取組状況

構成取組⑦	学校支援地域本部事業
-------	------------

計画（Plan）

学校・家庭・地域の連携により、地域ボランティアが花壇や図書室の整備を始め、学習支援などにより学校教育を支援する学校支援地域本部事業を推進し、地域の教育力の向上を図る。

市地域教育協議会において、今後の本事業の在り方を検討していく。

取組内容（Do）

学校支援ボランティア活動の実施

受託団体である各中学校区地域教育協議会が当初の計画に基づき、着実に事業を実施することができるよう、必要に応じて指導や助言を行った。

市地域教育協議会において、本事業と地域教育協議会事業の整理等について意見交換を行った。

活動指標等	単位	26年度 実績値	27年度 実績値	28年度 実績値	29年度 実績値 【見込値】	30年度 見込値
学校支援地域本部事業の活動回数	回	8,593	7,996	8,815	8,469 【8,850】	8,900
ボランティア活動人数	人	118,835	113,503	117,547	132,078 【120,200】	120,300

取組内容（活動状況）

【学校支援地域本部事業参加状況】

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校支援コーディネーター数	45人	43人	45人

評価（Check）		
市地域教育協議会において各受託団体間の情報共有を積極的行ったことなどにより、前年度と比較し参加人数が増加した。		
評価		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	中核市移行に伴い、国・府からの補助率が引き下げられることなどから、今後の地域教育コミュニティ事業の方向性を決定していく。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

教育大綱重点取組の総合評価

①地域教育協議会活動推進事業	A	⑨	
②学校安全体制整備推進事業	A	⑩	
③ねやがわ子どもフォーラム事業	A	⑪	
④家庭教育サポートチーム派遣事業	A	⑫	
⑤家庭教育学級事業	B	⑬	
⑥子どもへの暴力防止プログラム	A	⑭	
⑦学校支援地域本部事業	A	⑮	
⑧		⑯	
上記については、重点取組内の構成取組における評価を記入し、評価平均を計算。 評価点数 <u>A = 5、B = 3、C = 2、D = 1</u>		総合評価基準 A：取組評価平均 4.0 以上 B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満 C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満 D：取組評価平均 1.5 未満	
評価平均	4.7	総合評価	A
アドバイザーからの意見			
・ 家庭教育サポートチーム派遣事業については、教員以外の方が子どもの問題に対応している回数としては大変多く、寝屋川市の児童生徒が落ち着いている現状に大きな影響があると考えます。 ・ 子どもへの暴力防止プログラムについて、ネットを通じた被害に対する内容も取り上げることを検討していただきたい。			
総 合 評 価			
子育てに不安や悩みを持つ保護者に対して、訪問型支援や講座・講演会を通じて、子育てへの不安等の解消を図るとともに、学校と連携したサポート体制を継続して実施した。 学校・家庭・地域と行政が、連携して社会全体で「子どもを守る」ことの重要性を認識し、見守り活動や地域パトロールを実施した。また、「社会マナー」を学ぶ事業として、自転車利用のマナー教室や茶道教室など、礼儀礼節をも学ぶ機会を提供した。			

7 青少年の健全育成

教育大綱重点取組**青少年の健全育成****教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)**

①放課後子供教室推進事業	②留守家庭児童会児童健全育成事業	③青少年リーダー育成事業
④青少年の居場所づくり事業	⑤成人式事業	⑥青少年健全育成事業

平成 29 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 29 年度
事業費	千円	197,783

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

全ての児童にとって安全・安心な放課後の居場所づくりを推進するため、「放課後子供教室事業」及び「留守家庭児童会事業」を実施する。

子ども・子育て支援新制度により対象児童が小学6年生までに拡充されたことを受け、入会児童の増加に伴う、環境整備を実施する。

市内在住・在学の小学生からおおむね30歳までの若者が、社会体験、ボランティア活動やキャンプ活動を通じて、次代を担う青少年リーダーを育成する。

中学生以上の青少年が、安全・安心に集える場所として青少年の居場所を増設する。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童対策事業の一体化を進め、留守家庭児童会は、小学6年生まで活動の場を確保しつつ、児童支援員の確保及び資質向上を目指す。

青少年リーダー育成事業では、ユースリーダーの資質向上を図りながら事業の企画立案運営ができるようにサポートする。市内の青少年が、安全・安心に集える場所として、池の里市民交流センターの青少年の居場所「スマイル」を拡充するとともに、こどもセンターに青少年の居場所を新たに開設し、次代を担う青少年リーダーの組織化を目指す。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 29 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
青少年活動の参加者数	人	31,300	25,574	各事業の推進により、活動機会の充実を図ることができた。(実績値は、青少年の居場所・成人式・青少年リーダー・青年祭の参加者合計)
留守家庭児童会児童の放課後子供教室事業への参加回数	回	1,440	1,438	放課後子ども総合プランを積極的に推進し、留守家庭児童会児童も含めた一体的な放課後の各種活動の活性化が図られた。

平成 29 年度における取組状況

構成取組①	放課後子供教室推進事業
-------	-------------

計画（Plan）

平成 28 年度からの「放課後子ども総合プラン」実施に伴い、放課後児童対策事業（留守家庭児童会事業、放課後子供教室事業、放課後校庭開放事業）を総合的に実施していくため、モデル校 12 校において放課後校庭開放事業を放課後子供教室のプログラムの一つとして実施する。

取組内容（Do）

「放課後子ども総合プラン」モデル校の拡充

「放課後子ども総合プラン」の実施に伴い、放課後子ども総合プラン運営委員会を開催し、次年度実施に当たっての改善点や方向性などを検討した。

また、前年度に選定したモデル校 6 校に加え、新たにモデル校 6 校（東、明和、啓明、神田、田井、点野）を選定し、放課後校庭開放事業を放課後子供教室のプログラムの一つとして実施するとともに、留守家庭児童会児童も参加できる放課後の居場所づくりを推進した。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
放課後子供教室実施日数	日	1,979	1,936	2,442	2,759 【2,500】	3,000
放課後子供教室参加者数	人	63,198	60,803	94,631	120,639 【115,000】	135,000

取組内容（活動状況）

<放課後子供教室実施状況>

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
実施回数	1,979 回	1,936 回	2,442 回	2,759 回
参加児童数	63,198 人	60,803 人	94,631 人	120,639 人
大人・運営スタッフ	12,874 人	11,468 人	12,144 人	12,139 人
人数合計	76,072 人	72,271 人	106,775 人	132,778 人

平成 28 年度、平成 29 年度の数値は、モデル校で実施する放課後校庭開放事業の人数を含む。

＜放課後校庭開放実施状況＞

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
実施回数	2, 104 回	1, 845 回	1, 224 回	881 回
参加児童数	75, 139 人	65, 393 人	35, 121 人	27, 155 人

※平成 28 年度から 6 校ずつ放課後子供教室事業に移行しており、平成 30 年度 12 校が移行するため、放課後校庭開放事業は廃止する予定である。

＜放課後子ども総合プラン運営委員会開催状況＞

第 1 回：平成 29 年 7 月 24 日〔委嘱状及び任命状の交付式〕

第 2 回：平成 29 年 10 月 5 日〔モデル校実行委員交流会について〕

第 3 回：平成 29 年 11 月 24 日〔モデル校事業別回数・参加数等について〕

第 4 回：平成 30 年 2 月 16 日〔全 24 校導入に向けて〕

評価（Check）

放課後子ども総合プランモデル校 12 校において留守家庭児童会事業、放課後子供教室事業、放課後校庭開放事業を一体的な事業として実施するとともに、放課後子ども総合プラン運営委員会において、次年度に向けての改善点を抽出し、全 24 小学校での実施に向けた方向性の検討を行った。

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	全 24 小学校で放課後児童対策事業(留守家庭児童会事業、放課後子供教室事業、放課後校庭開放事業)を一体的に実施し、放課後子ども総合プランの趣旨に沿った放課後の環境整備を推進していく。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組②	留守家庭児童会児童健全育成事業
-------	-----------------

計画（Plan）

入会児童数の増加に見合う児童会室の確保と整備に取り組むとともに、児童支援員の資質の向上を図る。

また、保育サービスの一層の充実を図るため、平成 30 年度の土曜日開所について検討する。

取組内容（Do）

留守家庭児童会施設の整備、支援員の資質向上

入会児童数の増加への対応や安全・安心な保育を行うため、児童会室の施設設備の維持管理を行うとともに、支援員の研修を実施した。

土曜日開所の検討

平成 30 年度の土曜日開所に向け、実施方法、人員体制等について近隣市町村の状況調査や保護者ニーズ調査、関係課との調整を行った。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
入会児童数	人	1,664	1,860	2,088	2,135 【2,198】	2,198
実施箇所数	区画	39	40	56	57 【57】	57

取組内容（活動状況）

<入会児童数（各年度 5 月 1 日現在）>

年 度	1 ～ 3 年	4 ～ 6 年	合 計
平成 26 年度	1,601 人	63 人	1,664 人
平成 27 年度	1,754 人	106 人	1,860 人
平成 28 年度	1,742 人	346 人	2,088 人
平成 29 年度	1,747 人	388 人	2,135 人

＜職場集合研修の実施状況（平成 29 年度）＞

実施日	研修内容	受講者数
5 月 23 日	障がい児の発達について	93 人
7 月 14 日	学童保育の生活とあそびについて	92 人
9 月 6 日	子ども理解について	89 人
9 月 21 日	アレルギー対応について	91 人
10 月 24 日	職員コミュニケーションについて	90 人
11 月 8 日	障がい児研修（ケース判断）について	90 人
11 月 10 日	実践分析について	89 人
12 月 11 日	家族支援について	93 人

評価（Check）

安全・安心な保育を行うため、必要な児童会室の施設整備、人員確保や支援員の資質向上に努めるとともに、更なる保育サービスの拡充に向け土曜日開所についての検討を行った。

評定

今後の方向性（Innovation）

A	A:達成している (90%以上)	保護者の就労状況の変化など、社会情勢を踏まえた児童の受入体制の整備を推進するとともに、平成 30 年度の土曜日開所の実施だけでなく、休日開所に関するニーズ調査の実施など、一層の保育サービスの充実に向けて検討を行う。 また、入所児童数の推移を注視し、児童会室の整備や確保について、学校との調整を進める。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組③	青少年リーダー育成事業
-------	-------------

計画（Plan）

ユースリーダーや中高生リーダーにおいては、年次的にレベル向上を図るため、平成 30 年度での到達点を示すとともに、そのための年次的指導計画を立案していく。

小学生クラブにおいては、参加者増と継続登録者増を目指し、プログラム内容を充実していく。

取組内容（Do）

ユースリーダーによる企画・運営・指導の拡充

小学生及び中高生クラブでの指導や青年祭事業の企画、運営などの実績を踏まえ、平成 30 年度指導計画を立案した。

小学生リーダーの養成

中高生クラブ合同での交流会など、中高生クラブへの継続加入者増のためのプログラムを検討し、実施した。

中高生リーダーの養成

ユースクラブ合同での交流会など、ユースリーダーへの登録を見据えたプログラム等を実施した。

青年祭の開催

幅広い分野での青少年交流を図った。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
青少年リーダー登録者数 (ユースリーダー)	人	43	33	38	41 【48】	55

取組内容（活動状況）						
【青少年リーダー育成事業参加状況】						
	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
小学生クラブ	12 回	401 人	12 回	604 人	12 回	578 人
中高生クラブ	16 回	135 人	17 回	127 人	16 回	115 人
ユースクラブ	9 回	111 人	14 回	223 人	22 回	232 人
【青年祭参加状況】						
	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度	
出演団体数	375 人 (63 団体)		187 人 (31 団体)		297 人 (24 団体)	
事業参加者数	1,444 人		574 人		729 人	
評価（Check）						
青少年事業や地域活動を自ら展開できる人材を育成するため、各階層に適応したプログラム開発や年次的指導計画策定に向けて取り組んだ。						
青年祭については、幅広い分野において参加者募集した結果、平成 28 年度から事業参加者数は増加した。						
評価		今後の方向性（Innovation）				
B	A:達成している (90%以上)	地域活動を自ら展開できる人材を育成するため、専門性の高いプログラムの提供や各年代に適応した指導計画を立案し、リーダーズ組織全体のスキルアップを図る。 青年祭については、多くの若者が本市を訪れる機会となるよう、他の事業との合同開催など、更なる青年交流の充実を図る。				
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)					
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)					
	D:達成できていない (50%未満)					

平成 29 年度における取組状況

構成取組④	青少年の居場所づくり事業
-------	--------------

計画（Plan）

平成 28 年度のフルオープン化により、利用者が増加したことに伴う施設の適切な維持管理を行う。また、スタッフの人材育成を図り、利用者ニーズに即した運営を行う。

取組内容（Do）

スタッフの人材育成

スタッフ対象の研修を実施するとともに、適宜会議の開催を通じて、より満足度の高い運営方法の検討を行った。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
青少年の居場所利用者数	人	6,262	8,646	20,081	22,328 【20,500】	23,000

取組内容（活動状況）

＜利用者数＞
（所属区分別）

年 度	中学生	高校生	大学生	一 般	合 計
平成 27 年度	5,528 人 (63.9%)	2,138 人 (24.8%)	909 人 (10.5%)	71 人 (0.8%)	8,646 人
平成 28 年度	11,687 人 (58.2%)	4,499 人 (22.4%)	3,646 人 (18.2%)	249 人 (1.2%)	20,081 人
平成 29 年度	13,485 人 (60.4%)	5,703 人 (25.6%)	2,806 人 (12.5%)	334 人 (1.5%)	22,328 人

（男女別）

年 度	男 性	女 性	合 計
平成 27 年度	4,820 人 (55.7%)	3,826 人 (44.3%)	8,646 人
平成 28 年度	12,486 人 (62.2%)	7,595 人 (37.8%)	20,081 人
平成 29 年度	14,147 人 (63.4%)	8,181 人 (36.6%)	22,328 人

<開設日数> ・平成27年度：150日 ・平成28年度：279日（スマイル）、233日（ハピネス） ・平成29年度：344日（スマイル）、355日（ハピネス） <開設曜日・時間> 平日：午後3時～午後8時 土・日曜日、祝日、学校休業期間中：正午～午後8時		
評価（Check）		
スタッフを対象とした研修や会議を通じて、人材育成を行うとともに、利用者のニーズに応じた施設の充実を図るなど、青少年が利用しやすい環境づくりを行った。		
評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	引き続き、施設設備の維持管理やスタッフの人材育成を図り、青少年が気軽に立ち寄れる居場所づくりを推進する。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑤	成人式事業
-------	-------

計画（Plan）

新成人による実行委員会の活動を総合的に支援し、新たな発想によるイベント内容の充実を図るとともに、SNS の活用などにより、積極的に情報発信を行っていく。

取組内容（Do）

新成人による第二部の企画・運営の実施

新成人による実行委員会を組織し、市主催事業としてふさわしい第二部となるよう企画立案を進めた。

【主な事業内容】

- 寝屋川市にゆかりのある音楽家によるピアノソロ演奏
- 吉本エンターテイメント所属芸人（2組）による漫才
- 市ふるさと大使である大関豪栄道関からのビデオレター

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
新成人の出席率	%	65.5	67.1	68.7	66.4 【69.0】	69.5

取組内容（活動状況）

【男女別成人式参加状況】

性別	項 目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
男	対象者数	1,156 人	1,252 人	1,308 人
	出席者数	762 人	835 人	798 人
	出席率	65.9%	66.7%	61.0%
女	対象者数	1,173 人	1,192 人	1,090 人
	出席者	800 人	844 人	794 人
	出席率	68.2%	70.8%	72.8%

評価（Check）		
実行委員長を中心とした活発な議論など、実行委員会が順調に機能し、より充実した事業が実施できた。 また、当日についても、雨天での実施となったが、他課の職員による応援などにより、事故や混乱等もなく円滑に実施できた。		
評価		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	今後も引き続き、SNS などを活用した積極的な情報提供により、成人式出席者の増加を目指すとともに、実行委員として参画する新成人の確保や事業の充実に努めていく。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑥	青少年健全育成事業
-------	-----------

計画（Plan）

青少年指導員の資質向上に向けた研修等を実施するとともに、各委託事業を着実に実施できるよう、必要な指導・助言を行っていく。

取組内容（Do）

中学生の主張

市立 12 中学校及び市内私立中学校 2 校へ作品応募についての協力依頼を積極的に実施した。

青少年育成促進事業

青少年育成事業として各中学校区指導員会が中心となり、デイキャンプやハイキング、スポーツ大会など、地域ごとに特色ある事業を実施した。

オアシス運動の実施

各小中学校において登校時に校門付近であいさつ運動を実施するとともに、市内の四駅周辺でのティッシュ配布による啓発活動を実施した。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
各中学校区の青少年育成促進事業参加者数	人	4,755	5,993	5,901	4,758 【6,100】	6,200
中学生の主張発表会参加者数	人	264	255	247	263 【320】	340

取組内容（活動状況）			
【青少年健全育成事業参加状況】			
	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
中学生の主張 応募者数	2, 043 人	2, 225 人	2, 139 人
【青少年育成促進事業実施状況】			
中学校区	主な事業内容		
第一中学校	東コミセンまつりこどもコーナー運営		
第二中学校	桜小秋祭り・池田小秋祭り		
第三中学校	デイキャンプ・みかん狩り		
第四中学校	Eーne 学園ふれあいフェスタ手作りコーナー運営		
第五中学校	五中校区すこやかフェスタ遊びのコーナー運営		
第六中学校	手作り&体験オリンピック		
第七中学校	堀溝小ハロウィンパーティー・南小まつり・堀溝小まつり等		
第八中学校	校庭キャンプ・西小フェスティバル・点野小フェスティバル		
第九中学校	わくわくふれあい体験		
第十中学校	宇谷小フェスタ子ども手作り教室運営		
友呂岐中学校	デイキャンプ		
中木田中学校	ともだちになろうフェスティバル		
評価（Check）			
天候不順等により、各中学校区の青少年育成促進事業参加者数は減少したものの、青少年指導員の資質向上を図るため、自主研修会を実施するとともに、中学生の主張事業やオアシス運動啓発活動などの各種事業を積極的に実施できた。			
評定		今後の方向性（Innovation）	
A	A:達成している (90%以上)	引き続き、青少年指導員会としての自主事業や研修の充実などについて検討を促すとともに、役員体制の再編など組織力強化に向けた検討を進めていく。	
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)		
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)		
	D:達成できていない (50%未満)		

教育大綱重点取組の総合評価

①放課後子供教室推進事業	A	⑨	
②留守家庭児童会児童健全育成事業	A	⑨	
③青少年リーダー育成事業	B	⑩	
④青少年の居場所づくり事業	A	⑪	
⑤成人式事業	A	⑫	
⑥青少年健全育成事業	A	⑬	
⑦		⑭	
⑧		⑮	
上記については、重点取組内の構成取組における評価を記入し、評価平均を計算。 評価点数 <u>A = 5</u> 、 <u>B = 3</u> 、 <u>C = 2</u> 、 <u>D = 1</u>		総合評価基準 A：取組評価平均 4.0 以上 B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満 C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満 D：取組評価平均 1.5 未満	
評価平均	4.7	総合評価	A
アドバイザーからの意見			
・ 今後とも各事業の推進に努めていただきたい。			
総合評価			
留守家庭児童会については、更なる保育サービスの向上のため、土曜開所に関する保護者へのニーズ調査を実施した。 放課後子ども総合プランを積極的に推進し、モデル校を 6 校から 12 校に拡充するなど、全小学校への導入を見据えた事業を展開した。			

8 文化芸術の振興

教育大綱重点取組	文化芸術の振興
-----------------	----------------

教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)

①アルカスホール管理	②文化施策振興事業	

平成 29 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 29 年度
事業費	千円	77,307

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

地域交流や文化振興の拠点としてアルカスホールをより一層活用するとともに、文化に関するきめ細かな情報発信を行い、文化振興のための環境づくりを推進する。

また、活動・発表・鑑賞の機会の充実を図るとともに、文化芸術活動を担う人材の育成や新たな参加者の確保など、文化芸術活動の活性化を図る。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

アルカスホールの稼働率と利便性の向上を図るため、積極的な自主事業の展開や施設のPRが行われるよう、指定管理者との連携を推進する。

各文化事業の実施に当たっては、より効果的・効率的な実施に努めるとともに、「アルカスピアノコンクール」や「ミュージカル寝屋のはちかづき」など、魅力ある事業の検討を進める。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 29 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
アルカスホールの入場者数	人	77,200	82,097	アルカスホールを開館後、全施設の平均稼働率が 60%を超えていることから、音楽芸術の活動発表・鑑賞の場としての充実が図られたものと考えられる。
文化振興事業の参加者数	人	57,800	45,945	各種事業の実施方法の変更等に伴い、参加者数の減少が見られたが、新たに今年度、小・中学生を対象とした囲碁・将棋に関する事業を関係団体と連携して円滑に実施することができた。

平成 29 年度における取組状況

構成取組①	アルカスホール管理
-------	-----------

計画（Plan）

アルカスホールの稼働率向上を図る効果的な自主事業の展開などが行われるよう、指定管理者との連携を密にする。

取組内容（Do）

指定管理者との連携

アルカスホールの稼働率向上を図る効果的な自主事業の展開などが行われるよう、定例会議等を通じて指定管理者と検討・協議を行った。

特に、「アルカスピアノコンクール」や「ミュージカル寝屋のはちかづき」などの市事業を中心として、指定管理者の自主事業であるピラティス教室、落語会などを開催することで、ホールの積極的な活用を推進した。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
アルカスホールの稼働率	%	55.5	56.7	60.2	61.8 【62.0】	63.0

取組内容（活動状況）

<地域交流センター（アルカスホール）利用状況>

	平成27年度		平成28年度		平成29年度	
	使用回数 (回)	入場者数 (人)	使用回数 (回)	入場者数 (人)	使用回数 (回)	入場者数 (人)
メインホール	227	44,914	216	48,367	234	48,205
ギャラリーなど その他施設	1,167	39,977	1,249	32,484	1,291	33,892
合計	1,394	84,891	1,465	80,851	1,525	82,097

平成 27 年度	メインホール稼働率	66.2%	全施設稼働率	56.7%
平成 28 年度	メインホール稼働率	64.9%	全施設稼働率	60.2%
平成 29 年度	メインホール稼働率	68.6%	全施設稼働率	61.8%

＜自主事業の実施状況＞ 平成 27 年度 31 事業 6,820 人 平成 28 年度 45 事業 5,683 人 平成 29 年度 48 事業 5,856 人		
評価（Check） アルカスホールにおいては、指定管理者の自主事業数が増加したことでホールの活用が図られ、それに伴い稼働率の増加したこと、また、指定管理者と月例報告会など積極的な意見交換を行ったことにより、効果的かつ効率的な管理運営が図られた。		
評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	稼働率については、指定管理者との連携を密にし、向上を図る。また、市民が気軽に利用できる施設となるよう市の文化振興の指導的立場を発揮していく。
	B:おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組② 文化施策振興事業						
計画（Plan）						
「市民文化祭」や「市民たそがれコンサート」、「寝屋川ミュージックデー」などを開催し、市民の自主的な文化芸術活動を支援する。 アルカスホールのスタインウェイピアノをより一層活用するため、全国から参加がある「アルカスピアノコンクール」を開催する。 「ミュージカル寝屋のはちかづき」を開催し、地域文化の振興を図る。 囲碁・将棋を通じて、子どもたちに礼儀礼節を重んじる社会マナーを身に付ける機会を提供する。						
取組内容（Do）						
アルカスピアノコンクールの開催 平成 29 年 10 月から予選を開始し、12 月の本選を経て、平成 30 年 3 月に上位入賞者によるウィナーズコンサートを開催した。 「市民文化祭」や「市民たそがれコンサート」、「寝屋川ミュージックデー」ミュージカル「寝屋のはちかづき」を引き続き実施し、様々な文化の活動・発表・鑑賞の機会を提供した。 囲碁・将棋活動推進事業の実施 平成 29 年度の新規事業として、プロ棋士による指導も体験できる囲碁・将棋を推進する事業を開催し、子どもたちが囲碁・将棋を通じて、礼儀礼節を重んじる社会マナーを身に付ける機会を提供した。						
活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
アルカスピアノコンクール入場者数	人	3,117	3,262	3,121	2,962 【3,400】	※
囲碁・将棋活動推進事業の実施	人	—	—	—	992 【—】	1,000
※指定管理者に移管						

取組内容（活動状況）

＜文化施策振興事業の参加状況＞（人）

		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
市民たそがれコンサート		555	1,105	900
市 民 文 化 祭		9,876	9,573	9,764
寝屋川ミュージックデー		2,191	2,302	2,225
アルカスピアノ コンクール	出場者数	667	680	633
	入場者数	3,262	3,121	2,962
ミュージカル 「寝屋のはちかづき」	小学 4 年生	1,801	1,984	1,907
	一般	587	407	277
囲碁・将棋活動推進事業		—	—	992
寝屋川音楽祭～クラシック in ねやがわ～※隔年		—	944	—
市民ギャラリー利用者数		28,082	28,248	26,285

評価（Check）

各事業において安定した集客を得ることができ、市民の文化芸術活動の活性化に寄与することができた。

特に、全国規模の「アルカスピアノコンクール」やプロによる本格的なミュージカル「寝屋のはちかづき」の実施によって、音楽文化の振興や鑑賞機会の充実を図ることができた。

平成 29 年度は、将棋ブームと重なり、多くの受講者の参加を得ることができた囲碁・将棋の講座を開催することで、子どもたちが囲碁・将棋を通じて、礼儀礼節を重んじる社会マナーを身に付ける機会を提供することができた。

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	今後、文化に関わる後継者の育成を視野に入れた魅力ある事業を検討しながら、市民の活動・発表・鑑賞機会の充実を図るとともに、市にとって新たな文化の振興を図っていく。 また、「アルカスピアノコンクール」、「ミュージカル寝屋のはちかづき」、「市民文化祭」の更なる充実発展を図る事業についての検討を進める。
	B:おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

教育大綱重点取組の総合評価

①アルカスホール管理	A	⑨	
②文化施策振興事業	A	⑩	
③		⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	
上記については、重点取組内の構成取組における評価を記入し、評価平均を計算。 評価点数 <u>A = 5</u>、<u>B = 3</u>、<u>C = 2</u>、<u>D = 1</u>		総合評価基準 A：取組評価平均 4.0 以上 B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満 C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満 D：取組評価平均 1.5 未満	
評価平均	5.0	総合評価	A
アドバイザーからの意見			
- 文化芸術基本法の制定を踏まえて、文化芸術に関する施策の推進を図る必要がある。 - アルカスホール管理について、文化芸術基本法で劇場なども準社会教育施設として規定されており、今後、教育的機能を期待されているため、市民のための教育的な視点での事業実施の提案を指定管理者から受けていただきたい。施設の稼働率（61.8％）としては、全国平均（約 40％）から見ても極めて高い水準にあるため、維持していただきたい。			
総 合 評 価			
多種多様な文化振興事業の実施や地域交流の拠点としてアルカスホールを活用することで、市民の活動・発表・鑑賞の機会の充実を図り、文化に関する情報提供を行うとともに、団体などを育成・支援するなど、市民が自主的に文化活動を行うための環境づくりを推進することができた。また、囲碁・将棋の講座を開催することで、子どもたちの健全育成に寄与することができた。			

9 スポーツ活動の振興

教育大綱重点取組	スポーツ活動の振興
-----------------	------------------

教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)

①生涯スポーツ事業	②競技スポーツ事業	③市民体育館管理運営事業

平成 29 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 29 年度
事業費	千円	72,906

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

誰もがそれぞれのライフスタイルや目的に合わせ、生涯にわたり、スポーツに親しめる環境の充実を図るとともに、競技スポーツの普及、競技力向上を目指した取組を推進する。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

生涯スポーツへの参加機会の充実に努めるとともに、より高いレベルの競技者の育成を目指し、競技スポーツの振興を図る。

また、利用者が安全で快適に利用できるよう、市民体育館の整備・充実に努めるとともに、市民ニーズに応じ、施設の利活用を図る。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 29 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
各種スポーツ事業の参加者数 (エンジョイフェスタを除く)	人	27,100	34,585	市民体育館指定管理者や池の里クラブによるスポーツ教室や市民体育大会の参加者が年々増加傾向にあり、スポーツに親しむ市民が増えている。
市民体育館の延利用者数	人	183,760	204,865	耐震工事等で減少していた利用者数も市民ニーズに応じたスポーツ教室等、年間を通じて各種事業を実施したことで、利用者数が大幅に増加(回復)したと考えられる。

平成 29 年度における取組状況

構成取組①	生涯スポーツ事業
-------	----------

計画（Plan）

各種スポーツ事業の円滑な実施に向け、実行委員会と連携を図りながら、より多くの市民が参加できるように広報誌やホームページを活用した PR 活動に努める。またスポーツリーダーズバンクを活用しながら、各種スポーツ教室等を実施し、市民が気軽にスポーツに親しむ機会の提供に努める。

取組内容（Do）

寝屋川ハーフマラソンへの支援

6 月に寝屋川ハーフマラソンの実行委員会を立ち上げ、前年度に生じた課題（障害者の参加等）解決のために、実行委員会で協議し、今回から初めて障害者も参加できるようにするとともに、コース上の安全対策のために、警備員を増員する等、安全に配慮することができた。また多くのランナーから好評を得ている市民ボランティアが沿道で声援を送り、大きな事故も無く、無事、平成 30 年 2 月 25 日に全国から 5,711 名の参加を得て、開催することができた。（ボランティア数 1,400 人）

エンジョイフェスタ in ねやがわへの支援

6 月にエンジョイフェスタ in ねやがわの実行委員会を立ち上げ、新たな種目として「駅伝」にも取り組むため、何度も現地で実行委員と協議を行った。また本事業が、秋のイベントであることに着眼し、「ハロウィン」をテーマにした企画の検討も行った。しかしながら、前日より準備を行い、ほぼ設営も完了した頃に降雨となり、明け方になっても止む事なく、当日午前 6 時に中止を決定した。

平成 30 年度に向けて、平成 29 年度に企画した事業を円滑に行えるよう、実行委員会で協議を行っていく。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
寝屋川ハーフマラソン参加者数	人	5,569	5,898	5,646	5,711 【6,000】	6,000
エンジョイフェスタ in ねやがわ参加者数	人	28,302	28,742	30,247	中止 【30,500】	31,000

取組内容（活動状況）

〈寝屋川ハーフマラソン参加者数〉

種目等		H28 人数	H29 人数
健康マラソン(1.5 km)	小学低学年	209 人	225 人
	ファミリー	598 人	500 人
健康マラソン(3 km)	小学高学年男女	264 人	268 人
	中学生男女	61 人	80 人
	一般男女	176 人	210 人
クォーターマラソン	一般男女	713 人	789 人
	一般男女(50 歳以上)	317 人	336 人
ハーフマラソン	一般男女	2,459 人	2,404 人
	一般男女(50 歳以上)	849 人	899 人
寝屋川ハーフマラソンランナー合計		5,646 人	5,711 人
寝屋川ハーフマラソンボランティア合計		1,322 人	1,400 人

〈エンジョイフェスタ in ねやがわ参加者数〉

雨天のため、中止。

評価（Check）

寝屋川ハーフマラソンでは、新たに障害者ランナーも参加できるように関係機関等と調整し、30 人以上の参加を得ることができ、また沿道の声援にも支えられ、素晴らしい大会を開催することができた。

また、エンジョイフェスタ in ねやがわにおいては、スポーツ基本法第 23 条に規定される「体育の日の行事」として、スポーツを基軸とした事業とするため、新たに「駅伝」への取組を進めたが雨天で中止となった。しかし、実施に向けた十分な協議を行うことができたため、平成 30 年度の計画へつながった。

評価		今後の方向性（Innovation）
A	A: 達成している (90%以上)	寝屋川ハーフマラソンにおいては、次年度よりスポーツ振興くじの助成を受けることができるため、実行委員会だけでなく、市及び教育委員会も主催として新たに事業を展開していく。
	B: おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C: 一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D: 達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組②	競技スポーツ事業
-------	----------

計画（Plan）

競技力向上を目指すべく、市民体育大会への参加を市民に情報提供するとともに、その勝者を寝屋川市の代表として、北河内総合体育大会や大阪府総合体育大会等へ派遣することで、本市の競技スポーツの振興につなげていく。

また平成 29 年度以降の更なる競技スポーツの振興施策を関係団体とも協議しながら進めていく。

取組内容（Do）

スポーツ実技指導教室の充実

市民を対象に、スポーツ振興連盟加盟団体によるスポーツ種目別講習会、及びスポーツインストラクター養成のための講習会を開催し、高いスポーツ技術の習得並びに、正しいスポーツの指導が市域において実践されるように、競技力の向上に努めることができた。（24 種目 978 人）

市民体育大会及び北河内・府等大会の開催

競技スポーツの普及を図るため、「寝屋川市民体育大会」の 20 種目 22 競技において、市民体育館や淀川河川グランド等を会場に開催することができた。

また、寝屋川市民体育大会成績優秀者を派遣する「北河内地区総合体育大会」や「大阪府総合体育大会」等の参加者も増加傾向にあり、競技力の向上に努めることができた。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
寝屋川市民体育大会参加者数	人	6,442	6,747	6,376	6,610 【7,200】	7,500
北河内・府等体育大会等参加者数	人	545	607	606	647 【700】	750

取組内容（活動状況）

〈寝屋川市民体育大会参加者数〉

種目	参加者数	種目	参加者数	種目	参加者数
サッカー	150 人	グラウンド・ゴルフ	268 人	少林寺拳法	146 人
テニス	102 人	バスケットボール	180 人	剣道	66 人
インディアカ	57 人	卓球	148 人	マラソン	103 人
バウンドテニス	131 人	陸上競技	303 人	駅伝競走	135 人
バレーボール	404 人	柔道	149 人	ソフトボール	550 人
ゲートボール	30 人	ソフトテニス	52 人	軟式野球	2,248 人
ソフトバレー	137 人	バドミントン	61 人	空手道	342 人
レスリング	606 人	総合開会式	242 人	参加者合計	6,610 人

〈北河内・府等体育大会等参加者数〉

事業名	参加者数
大阪府総合体育大会	160 人
大阪府市町村対抗駅伝競走大会	35 人
北河内地区総合体育大会	407 人
北河内地区駅伝競走大会	34 人
三島・北河内地区対抗柔道大会	11 人
北河内・府等参加者合計	647 人

評価（Check）

様々なスポーツ種目において競技力向上を目指し、事故もなく大会を実施することができた。また、北河内や大阪府とも協力しながら、より高い技術が求められる大会に市民の代表を派遣する人数も年々増加傾向にあり、確実に各種スポーツの競技力向上が図られた。

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	市民の代表として派遣する「北河内・大阪府総合体育大会」の参加者に対して、大会規定上、市名の入ったユニフォームの着用が義務付けられており、今後、市の名誉を背負って参加する選手にユニフォーム等を貸与するなどの施策を目指す。
	B:おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組③	市民体育館管理運営事業
-------	-------------

計画（Plan）

トレーニング室の利用頻度の高いランニングマシンを購入し、利用者の利便性の向上を図る。

また必要に応じて、指定管理者と協議する中で、安全安心なスポーツ環境の整備に努める。

取組内容（Do）

市民体育館改修等の実施

市民体育館のトイレについては非常に老朽化していた上、洋式化になっていない現状及び利用者ニーズを踏まえ、大規模修繕を施工した。また指定管理者と連携し、廊下の電灯を LED 化するなど、安全安心なスポーツ環境の整備に努めた。

またランニングマシンは、利用頻度が非常に高いため、平成 27 年度から毎年購入を行っており、平成 29 年度においてもランニングマシンを 1 台購入した。

駐車料金の徴収

①受益者負担の適正化、②歩行者等の安全確保、③迷惑駐車のため、平成 30 年度からの駐車場の有料化に向け、市民体育館条例の一部改正を行った。

〈市民体育館利用者数〉

（利用状況）

室名	団体		個人	合計	利用率 (%)
	件数	利用者数			
大体育室	1,512 件	68,021 人	755 人	68,776 人	83.4
小体育室	629 件	12,752 人	4,537 人	17,289 人	85.6
トレーニング室	—	—	41,257 人	41,257 人	100
卓球室	731 件	7,904 人	14,673 人	22,577 人	99.2
剣道場	906 件	30,707 人	122 人	30,829 人	76.5
柔道場	601 件	15,397 人	441 人	15,838 人	63.6
会議室	261 件	6,626 人	—	6,626 人	25.1
研修室	98 件	1,673 人	—	1,673 人	11.3
合計	4,738 件	143,080 人	61,785 人	204,865 人	69.7

(個人利用内訳)

区分	利用人数	割合
一般	21,249 人	34.4%
幼児・児童・生徒	3,413 人	5.5%
高齢者(60 歳以上 70 歳未満)	12,197 人	19.7%
無料 (70 歳以上)	24,926 人	40.3%
合計	61,785 人	100%

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 【見込値】
市民体育館大体育室利用率	%	83.6	84.2	84.9	83.4 【87.3】	89.2

評価 (Check)

利用者ニーズに応え、市民体育館のトイレ改修、廊下の電灯改修等、施設環境の整備に努めることができた。指定管理者も自らの経費で施設改修や新たなスポーツ教室等を開設するなどしたため、利用者数も大幅に増加した。

また、市民体育館駐車場に関しては、歩行者の安全確保等を図るために、駐車料金の設定等の準備を行うことができた。

評定		今後の方向性 (Innovation)
A	A:達成している (90%以上)	市民体育館については、昭和 49 年に建設されており、毎年の維持修繕に加え、大規模な工事の施工も必要となっており、今後の個別計画に基づき、年次的な環境整備を図っていく必要がある。
	B:おおむね達成している (70%以上 90%未満)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

教育大綱重点取組の総合評価

①生涯スポーツ事業	A	⑨	
②競技スポーツ事業	A	⑩	
③市民体育館管理運営事業	A	⑪	
④		⑫	
⑤		⑬	
⑥		⑭	
⑦		⑮	
⑧		⑯	
上記については、重点取組内の構成取組における評価を記入し、評価平均を計算。 評価点数 <u>A = 5</u> 、 <u>B = 3</u> 、 <u>C = 2</u> 、 <u>D = 1</u>		総合評価基準 A：取組評価平均 4.0 以上 B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満 C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満 D：取組評価平均 1.5 未満	
評価平均	5.0	総合評価	A
アドバイザーからの意見			
・ 今後とも各事業の推進に努めていただきたい。			
総 合 評 価			
生涯スポーツ・競技スポーツに関わらず、市民がスポーツに親しむ機会や学ぶ機会を充実し、本市スポーツの振興を図ることができた。また、市民体育館の修繕を始めスポーツ環境の整備にも積極的に取り組むことができた。 今後は、更に様々なスポーツを体験する機会の充実を図り、第２期スポーツ基本計画に基づき、成人の週１回以上のスポーツ実施率を３人に２人に、週３回以上のスポーツ実施率を３人に１人となるような施策の検討、並びに市民体育館を含めた社会体育施設において、利用者が安全に快適に活動できるよう引き続き、環境整備にも努めていく。			

10 学習活動の充実

教育大綱重点取組	学習活動の充実
-----------------	----------------

教育大綱重点取組を推進する体制(構成取組)

①日本語よみかき促進事業	②成人教育講座事業	③まちのせんせい活用事業
④生涯学習推進調整事務	⑤学び館管理事業	⑥利用者サービス事業
⑦ICT化推進事業	⑧子ども読書活動推進事業	⑨読書普及啓発事業
⑩障害者・高齢者・多文化サービス事業		

平成 29 年度決算(見込み)

取組に係る費用	単位	平成 29 年度
事業費	千円	105,910

教育大綱実施計画における取組概要(平成 27 年度～30 年度)

誰もが、いつでも、どこでも学習活動に取り組むことができる学習の場を整備するとともに、幅広い学習情報を提供し、学習機会の確保に取り組む。

また、地域人材の養成や市民が学び得た成果を通じて地域に還元していく取組を進める。

教育大綱実施計画における取組の方向性(目標)(平成 27 年度～30 年度)

施設の老朽化対策を進めることで、市民が安全で快適な学習活動ができる場所の確保を図るとともに、情報誌やホームページなどの媒体を一層活用し、学習情報と学習機会の充実を図る。

また、まちのせんせいの活用による人材の養成やニーズに応じた生涯学習の充実及び読書活動の推進により、市民の学習活動意欲の活性化を図る。

成果・効果等を表す取組指標

指標名	単位	平成 29 年度		
		目標値	実績値	達成度コメント
市民一人当たりの生涯学習活動回数	回	8.0	8.5	生涯学習活動回数総数は年々着実な伸びを見せており、ニーズを捉えた事業推進が図れている。 生涯学習活動がより活性化するよう一層市民への働き掛けを行う。

平成 29 年度における取組状況

構成取組①	日本語よみかき促進事業
-------	-------------

計画（Plan）

学習の指導や運営体制を確立していくため、事務局とコーディネーター、スタッフとの指導者全体会議やスキルアップのための指導者研修会を行う。

取組内容（Do）

日本語よみかき学級の実施

日本語の習得を必要とする市民に、週に 1 回、昼と夜の部（年間 88 回）に学習をする機会を設け、本市で生活・就労等する上で、よみかき、会話でコミュニケーションが円滑に図れるよう取り組んでいるほか、文化交流会、年末お楽しみ会の開催や北河内識字・日本語交流会に参加した。

また、指導者のスキルアップや連携を密にするために、指導者全体会議を年に 6 回、指導者研修会を 3 回実施した。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
延べ受講者数	人	693	607	643	489 【850】	900

取組内容（活動状況）

< 平成 29 年度 >

回数	昼・夜 各 44 回	受講者数	52 人（12 か国）
延べ受講者数	489 人（88 回）	延べ保育者数	10 人（8 回）
課外学習	奈良公園（台風のため中止）		
北河内交流会	大東市立総合文化センター		
			18 人

＜国別登録者数＞

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
中国	13 人	16 人	17 人
フィリピン	5 人	3 人	2 人
タイ	11 人	5 人	4 人
韓国	0 人	1 人	0 人
インドネシア	20 人	14 人	9 人
ブラジル	0 人	1 人	0 人
ベトナム	14 人	2 人	12 人
スリランカ	1 人	1 人	1 人
ペルー	3 人	2 人	2 人
トルコ	0 人	1 人	1 人
台湾	0 人	2 人	1 人
日本	1 人	1 人	1 人
ドイツ	0 人	1 人	0 人
メキシコ	0 人	0 人	1 人
コロンビア	0 人	1 人	1 人
ネパール	3 人	1 人	0 人
その他	2 人	0 人	0 人
合 計	73 人	52 人	52 人

評価（Check）

延べ受講者数が減少しているが、実質の登録者数は平成 28 年度と変わりない。仕事等で受講できないなどの理由がある中で、受講者の学習状況に応じて、各種教材を活用した指導を行い、言葉やよみかきでコミュニケーションが円滑に図れるように取り組んだ。

また、よみかき学級の運営体制の確立のために指導者全体会議を、指導者のスキルアップのために指導者研修会を行った。

評定		今後の方向性（Innovation）
B	A:達成している (90%以上)	企業の短期的な就労実習生や研修生の学習者は入れ替わりが多く、日本語よみかきの短期習得が難しいため、個人のレベルや在留期間に応じ、目的を絞り込んだスポット的な学習指導方法や教室運営を確立していく必要がある。そのため、コーディネーター、スタッフとの会議や外部講師による指導者のスキルアップ研修を継続して行っていく。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組②	成人教育講座事業					
計画（Plan）						
市民ニーズに対応した講座の開催を目指し、アプローチの仕方や働き掛けに工夫しながら、各コミュニティセンターやふらっとねやがわとの連携を密に図っていく。						
取組内容（Do）						
市内公共施設での共同実施 市立校園 PTA 協議会や各コミュニティセンター運営協議会等と共催し、各地域の特色をいかした講座を開催することで、市民ニーズを反映した様々な学習の機会を提供することができた。						
活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
成人教育講座参加者数	人	840	766	862	830 【940】	960

取組内容（活動状況）			
＜平成 29 年度＞			
テーマ	開催日	講師	会場(参加者数)
盆踊り講習会	平成 29 年 6 月 17 日(土)・ 7 月 1 日(土)	中本 美智子	南コミセン (53 人・53 人)
絵手紙講習会	平成 29 年 7 月 21 日(金)	正木 伸子	西コミセン (16 人)
男性の働き方が変われば、社会が変わる！	平成 29 年 7 月 30 日(日)	多賀 太	ふらっとねやがわ (15 人)
おもしろ京都再発見	平成 29 年 9 月 11 日(月)	吉岡 一秋	南コミセン (35 人)
カラーリング講習会	平成 29 年 9 月 11 日(月)・ 平成 30 年 3 月 12 日(月)	土居 正博	東コミセン (21 人・29 人)
健康体操	平成 29 年 9 月 14 日(木)	井上 利光	西北コミセン (51 人)
ヘルマンハーブ講習会	平成 29 年 9 月 14 日(木)	藤井 光子	西コミセン (33 人)
京都再発見	平成 29 年 9 月 20 日(水)	吉岡 一秋	東北コミセン (36 人)
笑いヨガ	平成 29 年 9 月 30 日(土)	林 小絵	西南コミセン (23 人)
男の料理教室	平成 29 年 11 月 2 日(木)	上田 龍男	西南コミセン (13 人)
タイ家庭料理講習会	平成 29 年 11 月 8 日(水)	田中 弥生	南コミセン (20 人)
折り紙教室	平成 29 年 12 月 9 日(土)	駒井 靖彦	西コミセン (33 人)
初心者パン作り講習会	平成 30 年 1 月 23 日(火)・ 30 日(火)	森脇 郁子	西南コミセン (12 人・11 人)
折り紙講習会	平成 30 年 2 月 14 日(水)	増井 敬子	東北コミセン (29 人)
困難を乗り越えて強く生きる	平成 30 年 2 月 17 日(土)	濱宮 郷詞	アルカスホール (319 人)
料理教室	平成 30 年 2 月 14 日(水)	山本 耕司	西北コミセン(28 人)
6 コミセン 17 講座と、市 PTA 1 講座、ふらっとねやがわ 1 講座の 19 講座実施（参加者数合計 830 人）			
評価（Check）			
市内、各コミュニティセンターやふらっとねやがわ、市 PTA 協議会と共催し、市民ニーズに対応した講座を開催することができた。 また、講座の受講者向けのアンケートにおいても好評であり、今後の継続と発展の期待が大きい。			
評定		今後の方向性（Innovation）	
A	A:達成している (90%以上)	各コミュニティセンターと共催する講座も定着し、参加者は増えている。 また、ふらっとねやがわとの共催講座については、引き続き、連携し、市民ニーズに対応した講座の提供を行っていく。	
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)		
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)		
	D:達成できていない (50%未満)		

平成 29 年度における取組状況

構成取組③	まちのせんせい活用事業
-------	-------------

計画（Plan）

未派遣のまちのせんせいの活用について、まちのせんせい自身で講座を企画し、PR イベントを実施するなど、利用者に向けて周知啓発に努める。

取組内容（Do）

まちのせんせい体験講習会実施

保育所・幼稚園・小学校・中学校・福祉施設等において積極的に活用してもらおう、自主企画講座やまちのせんせいまつりを開催しPRを図った。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
まちのせんせい登録者数	人	116	128	108	121 【135】	140
まちのせんせい派遣依頼件数	件	116	122	136	171 【141】	180

取組内容（活動状況）

< 事業実績 >

	項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
まちのせんせい 活用事業	登録者数	128 人	108 人	121 人
	派遣依頼件数	122 件	136 件	171 件
	派遣人数	80 人	145 人	199 人
	主な指導内容	マジック・体操・ハンドベル・アロマテラピー・バルーンアート等		
主な派遣先	子ども会、自治会、老人会、保育所、幼稚園、幼児サークル、小学校、PTA、放課後子供教室、公共施設、高齢者施設			

評価（Check）		
利用者向けの PR としては、まちのせんせいまつりを開催し、体験コーナーを設け、一人でも体験できる機会を作り、まちのせんせいに実演してもらった。 生涯学習情報誌の中の「講師案内編」に、新たに「まちのせんせい」の名簿等を掲載し、情報発信を行うことができた。		
評価	今後の方向性（Innovation）	
A	A:達成している (90%以上)	未派遣のまちのせんせいの活用を充実させていくため、引き続き、自主企画講座や、イベントなどで実施してもらうなど、スキルアップや体験講習会を兼ねるような形で活性化を図っていく。また、新たなまちのせんせいの人材の発掘が必要と考える。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組④	生涯学習推進調整事務
-------	------------

計画（Plan）

発行時点での最新情報に留意しながら、市民の学習活動を促進するため、生涯学習情報誌の内容の充実を図る。

取組内容（Do）

学習情報誌の発行

市民の生涯学習活動を支援するため、各種講座やイベントの行政情報を提供する「講座・イベント編」、学習活動を行う団体やサークルの情報を提供する「団体・サークル編」の2種類の生涯学習情報誌（ねやがわ生涯学習あんない）を発行した。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
学習情報誌への掲載講座数	講座	726	702	701	700 【715】	720

取組内容（活動状況）

<生涯学習情報誌発行数・掲載情報数>

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
発行冊数	5,700 冊	5,700 冊	5,900 冊
掲載団体数	947 団体	908 団体	914 団体
掲載講座数	702 講座	701 講座	700 講座

評価（Check）

生涯学習情報誌を発行するとともに、その内容を市ホームページや市広報誌に掲載し、市民の生涯学習を支援することができた。

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	今後においても、最新情報に留意しながら、市民の学習活動を促進するため、生涯学習情報誌の内容の充実を図り、学習機会に関する情報を提供していく。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑤	学び館管理事業
-------	---------

計画（Plan）

指定管理者との連携を密にし、利用者の満足度の向上や、市民ニーズに対応するため、新たな自主事業の企画・運営を展開し、利用率の向上につなげていく。

取組内容（Do）

学び館の管理運営

世代間交流を推進するための効果的な自主事業を展開し、市民の自主学習・自主活動等に必要な場所を提供することができた。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
学び館利用者数	人	—	—	20,226	30,935 【22,125】	32,892

取組内容（活動状況）

< 学び館利用状況 >

		平成 28 年度	平成 29 年度
生涯学習事業	青少年健全育成講座 (子ども向け講座)	5,882 人	5,820 人
	青少年健全育成成人講座 (大人向け講座)	1,743 人	2,424 人
	世代間交流事業	3,235 人	8,052 人
貸し館等		9,366 人	14,639 人
合 計		20,226 人	30,935 人

評価（Check）		
学び館の場所の周知啓発や事業内容の情報発信を市広報誌・ホームページ等で積極的に行い、また、事業内容の拡充や市民のニーズに対応するなどし、多くの市民に利用していただくことができた。 複合施設のため、指定管理者と施設管理者（東障害福祉センター）と定期的に意見交換を行い、連携を密にすることで、市民ニーズへの対応や効率的・効果的な管理運営に努めた。		
評価	今後の方向性（Innovation）	
A	A:達成している (90%以上)	指定管理者との連携を密にし、利用者の満足度の向上や市民ニーズに対応するため、新たな自主事業の企画・運営を展開する。 また、施設の老朽化対策として、今後も施設管理者（東障害福祉センター）との意見交換を行い、計画的に修繕を実施し、施設の整備充実を図ることで、更なる利用率の向上につなげていく。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑥	利用者サービス事業
-------	-----------

計画（Plan）

図書館サービスの維持向上、専門性の継承を図るため、図書館運営の在り方を検討する。

中央図書館の施設及び備品の老朽化につき、中央図書館が設置されている総合センター全体の今後の方向性や社会情勢を踏まえ、どのように問題解決を図るか検討する。

取組内容（Do）

図書館機能の充実

中央図書館運営の在り方について検討し、民間委託可能な業務と選書等の市が直接行うべき根幹業務とを区分し、今後、全館窓口業務を民間委託化し、市が行うべき根幹業務を担当する職員体制の整備に取り組んでいくこととした。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
貸出延べ利用者数	人	302, 129	299, 358	303, 619	279, 198 【303, 500】	303, 800
学習室利用者数	人	—	—	31, 278	30, 640 【31, 500】	32, 500

取組内容（活動状況）

【図書館貸出冊数】

年度 館別	H27	H28	対前年比	H29	対前年比
中央図書館	525, 031	465, 185	88. 6%	440, 862	94. 8%
東図書館	51, 342	170, 712	332. 5%	162, 450	95. 2%
駅前図書館	428, 232	372, 368	87. 0%	342, 108	91. 9%
全館	1, 214, 068	1, 168, 832	96. 3%	1, 093, 535	93. 6%

※全館には、中央・東・駅前図書館のほかコミュニティセンター4分室・移動図書館を含む。

※平成 27 年度、耐震工事により東図書館は 9 か月間休館した。

※平成 29 年度 2 月は図書館システム入替作業の為、全館休館した為、前年度に比べ数値が減少している。

評価（Check）		
情報メディアの多様化等の社会的要因に加えて、図書館システム入れ替えのための全館休館があり、貸出冊数等の数値は減少したが、移動図書館の派遣先を増やす等の利用サービス充実に努めた結果一定程度の減少に留めることができた。		
評価		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	図書館サービスの維持向上、専門性の継承を図るため、中央図書館を含む全館窓口業務を委託化し、市で行うべき根幹的業務を担当する職員体制の整備を行う。 図書館全館の今後の在り方について、公共施設等再編整備計画や市民ニーズ等も踏まえる中で、引き続き検討する。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑦	ICT 化推進事業
-------	-----------

計画（Plan）

市民ニーズの多様化、ICT 化等の社会情勢を踏まえ、更なる利用者の利便性の向上や図書館業務の効率化に向けてクラウド型図書館システムを導入する。
WEB 予約促進に向けて、更なる周知を行う。

取組内容（Do）

図書館情報システムの更新

図書館情報システムの安定稼働や運用負荷の軽減、また、情報セキュリティの強化といった課題を抜本的に解消し、利用者の利便性の向上や、業務効率を維持向上させるため新たなクラウド型図書館情報システムを導入した（平成 30 年 3 月から本稼働開始）。

利用者の利便性の向上と予約受付事務の軽減に効果が大きいため WEB 予約利用者の拡大につながるよう図書館ホームページや窓口でのチラシの配布をし、市民に周知を図った。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
貸出予約に占める WEB 予約率	%	48.0	49.0	50.6	※算定不可 【51.0】	51.5
個人貸出冊数	冊	1,199,387	1,173,725	1,168,832	1,093,535 【1,236,400】	1,237,600

取組内容（活動状況）

<WEB 予約サービスの状況>

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
予約受付数（件）	211,655	212,206	206,019
内 WEB 予約数(件)	103,625	107,344	-

※平成 29 年度内 WEB 予約数はシステム入れ替えのため算出できない。

<個人貸出冊数>

（単位：冊）

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
中央図書館	525,031	465,185	440,862
東図書館	51,342	170,712	162,450
駅前図書館	428,232	372,368	342,108
分 室	154,554	145,571	135,630
移動図書館	14,566	14,996	12,485
総 計	1,173,725	1,168,832	1,093,535

分室は西北・南・東北・西南 4 分室の合計冊

評価（Check）

図書館情報システムを計画通りクラウド型のものに更新し、危機管理能力・利便性を向上し、業務の効率化を進めることできた。

なお、図書館システム入れ替えのための全館休館があり、個人貸出冊数の数値は減少したが、一定程度の減少に留めることができた。

評価		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	図書館情報システム（クラウド型）を基に ICT を活用した新たな図書館サービスを展開できないか、調査・研究を続ける。 WEB 予約促進に向けて、ホームページ等に掲載し、更に周知を図る。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑧ 子ども読書活動推進事業						
計画（Plan）						
第2次子ども読書活動推進計画に基づき、更なる子どもの読書活動推進のため、事業を実施していく。 特に、学校教育分野との連携も深め、学校司書研修等の支援を通じて児童生徒の読書活動を推進する。						
取組内容（Do）						
第2次寝屋川市子ども読書活動推進計画に基づく施策の実施 第2次寝屋川市子ども読書活動推進計画に基づき、学校司書研修を中央図書館で行った。 また、学校での読書活動推進に効果があるビブリオバトルを取り入れた授業を行うため、小中学校の司書教諭・学校司書を対象にビブリオバトル講習を実施した。 子ども読書活動推進施策実施 小学生・中学生を対象に読書通帳（手書き式）の導入を行った。						
活動指標等	単位	26年度 実績値	27年度 実績値	28年度 実績値	29年度 実績値 【見込値】	30年度 見込値
児童書の貸出冊数	冊	380,387	385,409	390,721	384,469 【397,000】	398,400

取組内容（活動状況）

＜子ども読書活動推進事業実績＞

事業名	開催回数	参加者数/贈呈数
子ども読書活動推進啓発講座（４回×３講座）	12 回	延べ 352 人
絵本で子育てにこにこ赤ちゃん	49 回	1, 207 人
保育所でのブックスタート	81 回	4, 950 人
絵本を贈ろう事業（４か月児）	30 回	1, 594 冊

＜団体貸出の貸出冊数＞

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
貸出冊数	40, 343 冊	38, 039 冊	32, 884 冊
学校園所	45 校園所	42 校園所	46 校園所
地域文庫の団体数	1 団体	1 団体	1 団体
その他の団体数	51 団体	50 団体	51 団体

＜読書通帳の配布冊数＞

平成 29 年度 2, 773 冊

評価（Check）

子どもの読書活動の推進については、学校司書研修・ビブリオバトル講習を実施するなど、学齢期の子どもの読書活動を更に進めるための学校連携を進めることができた。

児童書貸出冊数については、読書通帳配布開始後に対前年度比 110%となっている。

評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	就学前の子どもの施策を継続実施するとともに、第2次計画に基づき、読書通帳の配布など学齢期の子どもの読書活動の推進を図る。 読書通帳の配布率が向上するよう学校図書室で学校司書が配布できるよう取り組む。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑨	読書普及啓発事業
-------	----------

計画（Plan）

ビジネス支援講座等、市民の読書活動の推進に努める。

取組内容（Do）

読書普及啓発イベント実施

市民の読書活動推進のため、図書館で講演会等を企画し、市内在住作家やスポーツ選手の紹介等を館内で展示した。

特に、市内在住の門井慶喜さんの直木賞受賞については、ノミネート段階から図書館で特設コーナーを設置する等、市民の読書意欲を喚起する取組を行った。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
講座・講演会の参加者数	人	103	117	22	44 【60】	60

取組内容（活動状況）

< 講座・講演会等参加者数 >

年 度	名 称	参加者数
平成 27 年度	・ビジネス支援講座 ・歴史講演会 ・コンサート 2 回	332 人
平成 28 年度	・ビジネス支援講座 「高齢化時代におけるネットビジネスのチャンス」	22 人
平成 29 年度	・ビジネス支援講座 「人気商品はここが違います～売るためのマーケティング戦略とは」 ・ビブリオバトル講習	44 人

評価（Check）		
他課でも行っている類似のイベントの整理を行い、読書活動の推進につながりやすいイベントを絞り込み実施することで、より効率的・効果的な読書活動の推進を行い、前年度の倍の参加者数を得たが見込人数を下回った。 市内在住の作家の特設コーナーを設置し、直木賞受賞を応援することにより市民の読書意欲を喚起した。		
評定		今後の方向性（Innovation）
B	A:達成している (90%以上)	今後も効果的な講座を企画するとともに、市民ニーズに応じたイベント等を行うことで市民の読書活動の推進を図る。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

平成 29 年度における取組状況

構成取組⑩	障害者・高齢者・多文化サービス事業
-------	-------------------

計画（Plan）

視覚障害者向け点字・録音図書の作成を市民団体との協働で行い、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者や視覚障害者団体に配布し、利用促進を図る。

取組内容（Do）

点字図書の作成

視覚障害者向け点字・録音図書の作成を市民団体との協働で行い、平成 29 年度は、点字図書 8 タイトル、デージー図書 25 タイトルを作成した。

また、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者や視覚障害者団体に配布し、利用促進を図ることができた。

外国語資料の収集

外国語を母語とする人に図書館へ来館してもらえるよう、外国語原書の資料収集に努め、81 冊増やした。

活動指標等	単位	26 年度 実績値	27 年度 実績値	28 年度 実績値	29 年度 実績値 【見込値】	30 年度 見込値
点字・録音図書の貸出	巻	1,519	1,508	2,116	1,972 【2,200】	2,200
外国語資料の冊数	冊	1,143	1,173	1,486	1,567 【(1,736)】	1,900

取組内容（活動状況）

< 点字・録音図書貸出数 >

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
点字図書	151	266	177
テープ図書	1,024	1,350	1,386
デージー図書	333	500	409

※各数値は、巻数

評価（Check）		
視覚障害者向け点字・録音図書の作成を市民団体との協働で行い、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者や視覚障害者団体に配布し、利用促進を図ったので、図書館システムの入替え休館があったことを考慮すれば、実質的に貸出数を増やすことができた。		
評定		今後の方向性（Innovation）
A	A:達成している (90%以上)	視覚障害者向け点字・録音図書の作成を市民団体との協働で行い、作成した点字・録音図書の目録を視覚障害者や視覚障害者団体に配布し、更なる利用促進を図る。 また、外国語原書の資料の充実を図る。
	B:おおむね達成している (90%未満 70%以上)	
	C:一部達成であり、課題が残る (50%以上 70%未満)	
	D:達成できていない (50%未満)	

教育大綱重点取組の総合評価

①日本語よみかき促進事業	B	⑨読書普及啓発事業	B
②成人教育講座事業	A	⑩障害者・高齢者・多文化サービス事業	A
③まちのせんせい活用事業	A	⑪	
④生涯学習推進調整事務	A	⑫	
⑤学び館管理事業	A	⑬	
⑥利用者サービス事業	A	⑭	
⑦ICT化推進事業	A	⑮	
⑧子ども読書活動推進事業	A	⑯	
上記については、重点取組内の構成取組における評価を記入し、評価平均を計算。 評価点数 <u>A = 5</u>、<u>B = 3</u>、<u>C = 2</u>、<u>D = 1</u>		総合評価基準 A：取組評価平均 4.0 以上 B：取組評価平均 2.5 以上 4.0 未満 C：取組評価平均 1.5 以上 2.5 未満 D：取組評価平均 1.5 未満	
評価平均	4.6	総合評価	A
アドバイザーからの意見			
- 利用者サービス事業の成果としては、図書館の根幹業務であるレファレンス件数の推移を注視する必要がある。また、図書館の各事業について、事業に関わるボランティアの実働者数等の把握についても検討していただきたい。 - 昨今は、ネット等の影響もあり、読書の習慣が減ってきている。子ども読書活動推進事業により、今後も、アナログ型の小さい時から活字に触れる機会の提供に努めていただきたい。			
総合評価			
市民ニーズを的確に捉えた生涯学習活動の場が提供できている。成人教育講座においては、生涯にわたった活動につながる取組ができた。また、まちのせんせいの活用においては、日常の活動とともにPRを兼ねた取組を行い、今後の更なる取組につながる基礎固めを行った。 学び館の運営については、開館2年目となり、着実に利用者の増加が見られ、また指定管理者の運営にも落ち着きを見せている。 図書館運営全般については、数値的な伸びは見えないものの、第2次子ども読書活動推進計画に基づき、新たな取組を行うなど、読書推進に努めることができた。			